

# 八甲田で雪崩の危険

## 春スキーは注意が必要

八甲田山系の高田大岳南東斜面で、表層雪崩が発生していたことが、二十三日までに分かった。地元スキーヤーによって確認されたもので、雪崩は幅五十メートル、長さ約一キロにわたっていた。現場は二年前の春に大規模な全層雪崩が起きた場所で、これから春スキーのシーズンを迎えるに当たり、山岳関係者は雪崩に対する注意を呼び掛けている。

二十日に発生したとみられる表層雪崩は、末端雪が約三メートルの高さに硬く、このほか、猿倉岳山三十メートル、長さ百メートルの堆積(たいせき)した積み重なっていたとい



高田大岳南東斜面で発生した雪崩の跡。20日正午ごろ(久末正明氏提供)

頂付近でも二十一日に幅は二〇〇三年の四月に大規模な全層雪崩が発生。幸い人的被害はなかったが、周辺のアオモリトドマツやブナが次々となぎ倒されるほど激しかった。

た。この年は赤倉岳などでも雪崩が起きている。雪崩の発生は、積雪の多さとともに雪質も関係するといいい、「今年の雪は軟らかい」と指摘する専門家も。また、暖気と寒気の繰り返しで積雪の層に弱いところができ、これが滑り面となって表層雪崩が発生することがあるという。四月中旬以

降は底雪崩の発生も予想される。八甲田山系の春スキーはこれからの本番。今回、雪崩が確認された斜面にも全国から大勢のスキーヤーが訪れる。関係者は「既にいくつかの斜面で雪崩が起きており、十分な注意が必要」と呼び掛けている。